

期 部活動改善のための振り返り

評価期間 年 月 日 ～ 年 月 日

評価 A：良くあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない

	項 目	評 価
設置者	1 「運動部活動総合ガイドライン」等に則った「部活動の方針」を策定した。	A B C D
	2 部活顧問及び管理職対象の部活動の在り方に関する研修を実施した。	A B C D
	3 単独校での部活動が困難になった場合、合同部活動等の取組を推進した。	A B C D
	4 部活動指導員を積極的に任用・配置し、必要な研修を行った。	A B C D
	5 将来に向けて、部活動に代わりうる活動の機会の確保について検討している。	A B C D
校長	1 設置者が策定した「部活動の方針」に則った「部活動に係る活動方針」を策定した。	A B C D
	2 「部活動に係る活動方針」及び各部の目標、方針、活動計画などをホームページに掲載するなど の方法で公開した。	A B C D
	3 生徒や教師の数、生徒のニーズ、部活動指導員の配置状況、教師の長時間勤務の解消等を考慮し、 適正な数と内容の部を設置した。	A B C D
	4 各部の活動内容、活動時間、参加する大会、練習試合、休養日等を把握した上で、適宜、指導・ 是正した。	A B C D
顧問	1 生徒の多様な活動へのニーズや意見を把握し、生徒の主体性を尊重しつつ、活動の目標、指導の 方針、年間及び毎月の活動計画を作成した。	A B C D
	2 活動の目標、指導の方針、年間及び毎月の活動計画を生徒や保護者に配布・説明し、理解を得た。	A B C D
	3 1つ1つの練習や活動の目的や意味について生徒に理解させ、主体的に取り組む力を育成した。	A B C D
	4 積極的に評価や励ましの声をかけ、雰囲気作りや心理面での指導を工夫した。	A B C D
	5 厳しい言葉等を発した後は生徒へのフォローアップに留意した。	A B C D
	6 人権感覚の育成や目配り等により、いじめの防止を含めた適切な集団づくりに留意した。	A B C D
	7 部活動が総合的な人間形成の場となるよう、多様な面での指導力を身に付けるよう努力した。	A B C D
	8 参加する大会や練習試合の精選、効率的な練習方法の導入等により、バランスの取れた学校生活 の実現を図った。	A B C D
	9 各生徒の体力、体調、習熟度、疲労状況、精神状況等を把握し、無理のない安全な活動を行った。	A B C D
	10 部活動の取組で疲れて授業に集中できなくなる生徒はいなかった。	A B C D
	11 身体の酷使によってスポーツ障害を起こすことのないよう、十分配慮した。	A B C D
	12 施設・設備・用具等の定期的な安全確認を行った。	A B C D
	13 生徒が保健体育等で習得した知識や技能を活用し、積極的に安全を確保するよう指導した。	A B C D
	14 事故が起こった場合の対処の仕方や医療関係者等への連絡体制について熟知している。	A B C D
	15 顧問の感情によって指導内容や指導方法が左右されることはなかった。	A B C D
	16 生徒の人間性や人格を損ねるような発言、威圧的・威嚇的発言や行為をしなかった。	A B C D
	17 生徒間でも、前項のような発言や行為が行われないよう十分指導した。	A B C D
	18 部活動での体罰等を厳しい指導として容認するような傾向はない。	A B C D
指導員	1 活動の方針、計画、内容、方法、生徒の状況、事故が発生した場合の対応等について十分に理解 し、顧問教師と相互に情報を共有した。	A B C D
	2 校長の監督及び顧問教師の指示の下に生徒の指導に当たることを十分理解している。	A B C D